



こちら、三中図書館 10月号

市川市立第三中学校図書館 2023.10.5

朝・夕方は涼しい風が吹くようになりましたが、日中の気温は日によってまちまちですね。10月に入り、衣替えで、制服登校となりました。みなさんの制服姿が新鮮に目に映ります。



図書委員会では、全国読書週間(10/27~11/9)の取り組みとして、10月31日に、桜歌祭文化の部で、ピブリオバトルを実施します。

ピブリオバトル <公式ルール>の確認

- ① 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
- ② 順番に一人5分間で本を紹介する。
- ③ それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2~3分行う。
- ④ 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか?」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多数を集めたものを「チャンプ本」とする。

★本来のルールは上の通りですが、今回は、文化の部で短い時間で、録画形式で行うので、ミニピブリオバトルの形で開催します。<変更点>は、【②一人2分間で紹介する。③なし
④投票は、参加者でなく、動画を見た人が、読みたくなった本を投票する。】とします。

★今回は、3年生が3人発表してくれます。どんな本がおすすめされるか、お楽しみに♪

10月の行事とくらし

神無月

(「子ども歳時記 12か月」より)

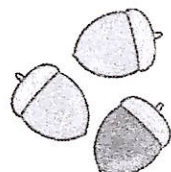
神送りと神迎え…神無月には、日本各地の神さまが^{いするたしよ}出雲大社(島根県)に集まるといわれています。神さまが出発する1日ごろや、帰ってくる31日ごろには、だんごや赤飯などを備えます。

冬の衣替え(1日)…衣服を冬ものにかえる日です。学校の制服などは、濃い色の冬服に代わります。

おくんち…旧暦9月9日の^{ちゅうりょう}重陽の節句をおくんちと呼びます。日本各地で秋祭りが行われます。10月7~9日に行われる、長崎県の「長崎くんち」が有名です。

体育の日(第2月曜日)…東京オリンピック(1964年)の開会式にちなんで設けられた祝日。スポーツに親しみ、健康な心身を育てる日です。

ハロウィン(31日)…キリスト教の聖人を祭る万聖節の前夜祭です。その後19世紀にアメリカに渡り、カボチャで作った「ジャック・オ・ランタン」や、子どもたちがおばけの扮装をしてお菓子をねだるハロウィンの祭りとして広められました。



図書紹介

新刊の中から数冊紹介します。



「この夏の星を見る」 (辻村深月) 913

コロナでいろいろなことが出来なくなってきた学校生活。茨城県の高校2年生亜紗(あさ)・凜久(りく)、渋谷区の中学1年生真宙(まひろ)・天音(あまね)、長崎県五島列島の高校3年生円華(まどか)・武藤・小山・輿(こし)。離れた所にいる生徒たちが天文活動に出会い、オンラインでつながっていきます。自分たちで望遠鏡を手づくりしながら交流を深め、そして星をつかまえるスピードを競う「スターキャッチコンテスト」を開催します。どこが優勝したのか?

コロナの初めから経験してきた私達にも、そんなことがあったかと、悲しみや苦しさを共感し切なくなる場面も…。コロナだからと、はなからあきらめるのではなくて、自分たちにできることは何かを考えなさいと言ってくれる綿引先生など…。心が暖くなる素敵な本です。

「ウクライナから来た少女 ズラータ、16歳の日記」 (ズラータ・イヴァシコワ) 916



それは突然やってきた。みなさん、明日戦争になります。昨日までマンガと小説が大好きなウクライナの普通の少女だったズラータ。ある日、爆音が聞こえて、戦争が始まった。反抗期に日本語や日本文化に夢中になったズラータ。そんな縁で、母は娘を一人で日本に行かせるという決断をする。母が必死で工面してくれた16万円をもって戦火が広がる故郷ウクライナからあこがれの日本を目指す。全力で生きることへ挑戦する女子高生に訪れた優しい奇跡と生きることへの挑戦がつづられた140日間の日記。16歳の後半は、なんて激動の日々だったのだろう!

「災害伝承の大研究

命を守るために、どう伝える? (監修 佐藤翔輔) 369

日本はどういう国でしょうか?日本は地震、火山噴火、大雨、台風、河川の氾濫、海からの波(津波、高潮)などが起こりやすい条件を備えているため、災害が起こる、被害を受ける、それに対応することは、日本に住む私たちにとって避けられないことなのです。

本書では、「災害伝承」にまつわる、ヒト・コト・モノを紹介しています。災害を伝えるかたちはさまざまです。(自然災害記念碑(石碑)、古文書、民話、風習・祭礼、言い伝え、地名、語り部など)一多くの村人を救った「稲むらの火」、自分の命を守りぬく「てんでんこ」など紹介。

現在では、3D映像、VRなどを活用するなど、伝承のかたちも進化し続けています。

「13歳からのプレゼンテーション」 (監修 松永俊彦) 809

学校で、家庭で、社会で役立つ「相手を動かす伝え方が身につく本」。(Part1準備編)プレゼンテーションってなあに?なぜ必要なの?誰でも上手になる?(Part2基礎編)伝わるプレゼンテーションの作り方—テーマを決める、言いたいことを洗い出す(Part3実践編)プレゼンテーションをやってみよう—見通しを立てる、簡単な言葉で話そうなどを文章とイラストでわかりやすく説明しています。★プレゼンは生まれつきの才能ではありません。コツを知って練習すれば、だれでも上手にできるようになります。

★リクエストをお寄せください!

購入してもらいたい本・雑誌などあったら、図書館までお知らせください。お待ちしております。